

イラクで武装グループに拘束され解放されたボランティア活動家高遠菜穂子さん(三十四)北海道千歳市が二十日、解放後初めて報道各社の代表取材に応じた。拘束中に「もう駄目だ」と何度も死を覚悟したことや、イラクに再び行くかは分からない



高遠菜穂子さん

いが、支援してきたイラクの子どもたちを見捨てたくないなどと述べた。

拘束中、高遠さんはイラクの病院に医薬品を運んだことなどを説明したが「英語を話すからスパイだ」などと、何度も罵声(ばせい)を浴びたという。今も恐怖を感じて

**もう駄目だ…何度も死を覚悟**

**武器を持たない人道支援必要**

いる様子だった。

その一方、解放直後「イラク人は嫌いになれない」と語ったことについて、「彼らも愛する家族を殺され、悲痛な叫びを届かせるには、この(人質を取るという)方法しか見つけられなかったのだらうと感じた」と説明。「彼らもこのやり方が決して良くないと知っていると話していた。武器を捨てる勇気を持ってほしいと思う」とした。

また「あれだけ親日だったイラク人が反日感情を持つようになったことが何より悲しい。今こそ武器を持たない人道支援が必要と強く感じます」と述べた。

高遠さんは何度かインタビューを中断、今朝もじんましんが出るなど体調は悪く、依然安定剤を使っているという。

高遠さん、解放後初めて語る